

【新刊紹介】

日本気候図

第1集 35,000円 1971年

第2集 35,000円 1972年

著作・編集 気象庁 発行 地人書館

日本気候図 第1集, 第2集が刊行された。

この気候図は、1955年(昭和30年)に世界気象機関(WMO)が、世界気候図帳を作成することを決議したことに基づき、加盟各国が自国の気候図帳を作成し、それらを基に地区気候図、世界気候図を作成していこうとする計画の一環をになうものである。

第1集, 第2集とも WMO で決めた基準項目を、多色刷大版に編集した豪華本である。

第1集は気温, 湿度, 蒸気圧, 降水量, 気圧, その他の月平均値等の分布図で, 59 plate から成り, **plate 1**: 地勢図, 月平均海面水温(2月, 8月), **plate 2**: 観測所, 気象官署, 人口密度, **plate 3~15**: 月(年)平均気温(最高+最低) $\frac{1}{2}$, 海面更正月(年)平均気温(最高+最低) $\frac{1}{2}$, 月(年)平均気温の標準偏差および経年変化, **plate 16~27**: 日最高気温および気温日較差の月平均値, 日最高気温月平均値の標準偏差および経年変化, **plate 28~39**: 日最低気温の月平均値, 月平均気温の補正值(8回-最高+最低) $\frac{1}{2}$, 日最低気温月平均値の標準偏差, 月最低気温月平均値の経年変化, **plate 40~52**: 月(年)の降水量, 平均湿度, 平均蒸気圧, 降水量の経年変化, **plate 53~58**: 月平均海面気圧と風配図, 極東付近の月平均海面気圧, **plate 59**: 月降水量のばらつき, 等が収められている。

第2集は年最深積雪, 日平均雲量, 月間日照時間の分布図ならびに気温, 降水量等の階級別出現日数⁴⁾の分布図, さらに日本独自の項目として, 台風に関する各種統計, 強風や強雨の統計, 大気透過率の経年変化図, 各地のクリモグラフ, さくらの開花日, もんしろちょうの初

見日, 等の統計図や分布図で, 61 plate から成り, **plate 1**: 地勢図, 気象官署の観測開始年, **plate 2**: 月平均気温の年較差, 気温日較差の年平均値, **plate 3~5**: 最低気温 0°C 未満の日数(11~4月, 年間), **plate 6~7**: 最高気温 0°C 未満の日数(12~3月, 年間), **plate 8~9**: 最低気温 25°C 以上の日数(7~9月, 年間), **plate 10~11**: 最高気温 30°C 以上の日数(6~9月, 年間), **plate 12~14**: 最高気温 25°C 以上の日数(5~10月, 年間), **plate 15~27**: 降水量 1mm 以上および 10mm 以上の日数(1~12月, 年間), **plate 28**: 年最深積雪, 積雪日数(年間), 積雪の深さ 10cm 以上の日数(年間) **plate 29**: 積雪の深さ 20cm 以上および 50cm 以上の日数(年間), **plate 30~42**: 平均雪量(1~12月, 年間), 月間日照時間(1~12月, 年間), **plate 43~55**: 平均雲量 2.5 未満および 7.5 以上の日数(1~12月, 年間), **plate 56~61**: 月間雷日数(1~12月), が掲載されている。

なお, 主要地図の縮尺は 300 万分の 1 で見やすく, また気温と雨については区内観測所の資料をも含め精細にわたっている。

この気候図は, 長い過去の年月, 延べ数千万回にわたって, 離島, 山岳をふくむ日本各地で行なわれた観測の集積とエッセンスであり, これに匹敵する気候図は, 今後相当の期間発行されないのであろうと, いわれている。

この気候図は, こんご防災や産業, 気候学をはじめとする学術・教育など各方面で利活用され, それぞれの分野に寄与することは, はかり知れないほど大きいであろう。

(山田文雄)